

2018安全推進講習会

安全なラグビーの実現に向けて

日本ラグビー協会
安全対策委員会



この資料について

- ラグビーチームで安全対策を担当する方が知っておくべきことをできるだけ網羅
- 講習で説明しないページには  と明示
- 所属するチームでのフィードバックでは、必要な情報を必要な人に伝える

→ プレーヤーが安全対策を理解することが重要



『安全管理の必要性』を考える

「あなたのチームではどうでしょうか？」

- 脳振盪を隠して試合を続けようとした。
- 重症傷害が発生したときに、選手の家族の連絡先を知らない。
- 選手が足りなかったので、選手登録も保険加入もしていないOBを試合に出した。
- 熱中症への処置を知らない。
- 雷がきたが試合終了まであと10分だったので試合を続けた。
- ラグビー協会の見舞金制度の存在を知らない。



1. 安全対策への取り組み

2. 傷害状況と対応について

3. 安全管理プロセスについて

4. Integrity の推進

JRFUからのお願い

- 登録管理システム対応



安全対策ビジョンとターゲット

- 安全対策ビジョン
 - ラグビーにおける安全管理の重要性を指導者もプレイヤーも理解し、日々の練習・試合および日常生活において実践し、”重症事故”の発生を防ぐ。
 - ラグビーが適切に管理された”安全”なスポーツであるというイメージを作り、競技人口/観戦人口の拡大を目指す。
- 安全対策ターゲット
 - 重症事故ゼロの実現
 - ラグビーの安全面におけるイメージアップ



「安全対策に対する日本ラグビー協会の取り組み」 サマリー

平成15年 (2003年) 「重症事故対策特別委員会」

平成17年 (2005年) 「重症事故撲滅プロジェクト」

平成19年 (2007年) 「重症事故対策本部」

平成20年 (2008年) 「安全推進本部」

安全推進講習会を実施(チーム登録のための義務講習)

平成21年 (2009年) 「安全対策推進委員会」

平成22年 (2010年) 「安全対策委員会」



安全対策に対する日本ラグビー協会の取り組み (1 of 3)

日本ラグビーフットボール協会 安全対策委員会 委員長 渡辺 一郎

[注.2011年発刊時]

● 重症事故対策特別委員会から安全推進本部へ

ラグビーはコンタクトを伴うスポーツでありそれゆえ他競技に比べ多くの外傷・障害が報告されている。この事実からIRBでは彼らの制定した「ラグビー憲章」のなかの「競技規則制定の原則」において「安全性が保障されなければならない」と強調している。また「Rugby Ready」には「身体接触を伴うスポーツであるラグビーでは、すべての参加者の安全が最重要であり、関係者全員がその責任を負っている」と書かれている。つまりラグビー競技においてはすべてに優先されて「安全」があると認識しても間違いはない。換言すれば、われわれ関係者は外傷や障害からいかにプレイヤーを守ってあげるかを常に考慮しなければならない立場にある、ということでもある。この考えに立脚して日本協会としての安全対策に対する諸活動は今まで安全対策委員会を中心に行っていた。しかし外傷や障害に加え重症事故の増加が報告されるようになり新たな対策を講じる必要性が生じ、平成15年8月日本協会主導による「重症事故対策特別委員会」を立ち上げる。この特別委員会で課題の抽出ならびに各委員会での具体的な検討事項を話し合い、答申を出した。にもかかわらず重症事故の減少に至らなかったことから、早急に更なる対策を講じる必要性が生じ、平成17年10月各委員会にまたがる横断的組織「重症事故撲滅プロジェクト(通称インテグレート・プロジェクト)」を発足させた。同プロジェクトが行った主な活動は①スクラムトレーニングマニュアルDVDの作成②各講習会でのタックル、スクラム指導③スキルアップ講習会④「夏合宿を前に」等の通達文作成送付⑤高校チーム指導者の実態調査等、である。

次ページに続く



安全対策に対する日本ラグビー協会の取り組み (2 of 3)

このプロジェクトの活動は多角的かつ有機的に行われたが、残念なことに重症事故の撲滅という結果には至らなかった。さらに効果的な対策を講じる必要性を再認識し、日本協会は「重傷事故撲滅」「安全なラグビーの普及・徹底」を最高のミッションとして掲げ平成19年10月、真下専務理事を本部長とした「重症事故対策本部」を発足させ、平成20年「安全推進本部」と改名し活動を強化させながら継続してきた。

● 安全推進本部としての新たな活動内容

安全推進本部は専任の事務職員を配置し本格的な活動をスタートさせた。「インテグレートプロジェクト」での活動内容を踏襲しつつ新たに本部内に重傷事故分析班を設置した。そこで重症事故に至った要因を詳細に分析し、その結果から導き出された問題となる技術やトレーニング法を検討し、重症事故撲滅キャンペーン用のDVD制作につなげた。平成20年1月にはこのDVDを使って安全対策委員会、医事委員会等と連携協力し、初めて全国から各都道府県安全対策委員長、医務委員長、コーチトレーナーが一堂に会し安全推進講習会を実施した。登録チーム減少の危惧の中、あえてチーム登録のための義務講習として、(その内容をグランドレベルまで落とし込むために)指導責任者を対象に各都道府県単位で複数回、安全推進講習会を実施した。これにより未受講のチームについてはチーム登録ができないような対応をとった結果、全国にわたりほとんどのチームの指導者が受講した。

[次ページに続く](#)



安全対策に対する日本ラグビー協会の取り組み (3 of 3)

- 安全推進本部から安全対策推進委員会を経て再度、安全対策委員会へ

さらに活動を効率良く行うため平成21年4月、既存の安全対策委員会を吸収する形で新たに安全対策推進委員会を立ち上げた。内容を充実させるため、またきめ細かく受講者に浸透させるため、それまで日本協会主導で行ってきた安全推進講習会を関東協会、関西協会、九州協会の三地域協会主導で行うことにした。講習会の内容は「安全な技術の習得」「怪我をしないための体づくり」等を根幹として医学的側面を加味したもので、各都道府県安全対策委員長、医務委員長、コーチトレーナーにより講習内容を伝達して頂いている。これまでの主な講習内容は「日本版ラグビーレディの活用」「正しいタックルおよびその指導法」「体幹トレーニング」「ラック」「ラグビーの脳震盪」である。平成22年、委員会の名称をより一般に浸透しやすくするために再度、安全対策委員会に変更した。

おわりに

重症事故対策特別委員会の立ち上げから安全対策委員会まで約10年間「重傷事故撲滅」「安全なラグビーの普及・徹底」の活動を継続して行ってきたが、事故件数は横ばいのまま推移した。しかし平成21年から減少傾向を示し始めている。これは三地域協会が中心となり安全講習会やその他の地道な活動を強化していった結果、現場レベルで指導者の意識改革がなされ始めてきたからではないだろうか。しかしながら、一方でクラブ(未登録を含む)での事故が増加傾向にあるので更なる重症事故の減少、根絶を目指すためには協会、指導者、選手はもちろんのこと、ラグビーに関わるすべての関係者が一体となって総力を挙げて取り組む努力が必要である。



安全推進講習会の提供

- 平成20年(2008年)より安全推進講習会をチームの協会登録の前提研修として実施。
- 過去の安全推進講習会の資料・動画を是非とも活用ください。

動画あり

年	テーマ
平成20年 (2008年)	ラグビー安全推進マニュアル
平成21年 (2009年)	安全なタックルをするために
平成22年 (2010年)	体幹トレーニング
平成23年 (2011年)	ラック
平成24年 (2012年)	脳振盪
平成25年 (2013年)	脳振盪
平成26年 (2014年)	ラックでの安全対策
平成27年 (2015年)	WRコーチングツール(Rugby Ready)
平成28年 (2016年)	タックルスキル、脳振盪管理
平成29年 (2017年)	年代別の安全対策(Player pathway)初心者への段階指導

コーチネット → コーチングツールボックス → 安全対策
<https://www.jrfu-coach.com/about1-c216q>

注. 日本ラグビー協会のホームページのリニューアルを行うため、URLは変更されますが、提供する情報は変わりません。



チームの安全管理体制

ラグビー外傷・障害対応マニュアルより

コ ー チ

- 1) チームの目標
- 2) 練習計画の作成
- 3) 安全対策責任者の選定
- 4) チーム規則の作成

健康管理スタッフ

- 1) 周辺医療環境の把握
- 2) メディカルチェック計画
- 3) 選手のコンディション管理
- 4) チームドクターとの連携

選 手

- 1) 健康管理（自己管理）
- 2) トレーニング
- 3) 用具管理
- 4) ラグビースピリット
- 5) スキルの向上

チームに必要な安全管理体制の整備

- ✓ 必須となるスタッフ/資格取得者
(チーム登録のため)

□安全対策責任者

= 安全推進講習会受講者

□セーフティアシスタント資格者

□コーチ資格取得者

- ✓ 必要に応じて「チームドクター」
「チームトレーナー」などを任命





「セーフティアシスタント制度」制定

平成24年4月1日

日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部達三

今般、日本協会では従来のメディカルサポーター制度を見直し、平成24年4月1日より新たにセーフティアシスタント制度に移行することを決定しました。『セーフティアシスタント』とは、ルールブック第6条A4(f)「レフリーは、規則に従って、チームドクター、医務心得者、またはその助手が競技区域内に入る許可を与える。」の「その助手」にあたる任務を遂行するものです。

移行に伴い以下の点を確認願います。

セーフティアシスタントの有効期限は4年とする。

協会登録チームは1名以上のセーフティアシスタント資格保有者を配置しなければならない。

現在保有しているメディカルサポーター資格はセーフティアシスタント資格と読み替え現登録番号を使用し、その有効期限は4年(平成28年3月31日まで)とする。

レフリーは試合前に必ずセーフティアシスタント認定証(移行者については、メディカルサポーター認定書)の確認をする。

医務心得者とは、以下の資格を有し、かつセーフティアシスタントの資格を有するものと定める。

医師、歯科医師、看護師、理学療法士、救急救命士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、日本体育協会公認アスレティックトレーナー



参考情報. ラグビーワールドカップ日本代表スタッフの構成

- チーム運営に必要なスタッフの役割が多様化してきている。
- コンディション・メディカルの対応が重視されている。

	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回
監督	1	1	1	1	1	1	1	1
ドクター	1	1	1	1	1	1	1	1
トレーナー	1	1	1	2	3	3	3	3
S&C				1	1	2	2	2
メンタル								1
アナリスト				○	○	○	○	○



ラグビー協会、日本体育協会、スポーツ安全協会 提供情報

注. 日本ラグビー協会のホームページのリニューアルを行うため、
以下に紹介する画面、URLは変更されますが、提供する情報は変
わりません。



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (1/9)



HOME JRFUコーチングの指針 年代別指導コンテンツ **安全対策** WORLD RUGBY

安全対策

日本ラグビーフットボール協会より、2004年以降に発行された競技規則関連の通達等のご案内です。過去のトピックスは[こちら](#)

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル-2013改訂版』

(公財) 日本ラグビーフットボール協会では、安全対策について、指導者をはじめとするラグビー関係者が正しい知識を持ち、かつ正しい処置法を身につけておく必要から、2011年1月に「ラグビー外傷・障害対応マニュアル」を発行しました。

このたびの改訂は熱中症や一次救命処置のフローチャート、ストレッチャーでの搬送等に関する変更によるものです。このマニュアルにより、チーム監督、指導者の皆様をはじめ、選手自身にラグビーの外傷についての基礎知識と安全対策の認識を更に浸透いただき、重症事故の撲滅、傷害の軽減を推進していただきたいと思います。

ラグビー外傷・障害対応マニュアル」を広く活用いただくため、本冊のダウンロードができます。

購入は[こちら](#)から

左の表紙写真をクリックで、ダウンロードしていただくことができます。
(PDF、約4.6MB)

注. 日本ラグビー協会のホームページのリニューアルを行うため、紹介している画面、URLは変更されますが、提供する情報は変わりません。



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (2/9)

『脳震盪への対応』

脳震盪か否かの判断と、その後の対処についてまとめていますので、ご確認いただき適切な対応を取るよう心がけてください。

- ▶ [脳震盪ガイドライン\(日本語最新版\)](#)
IRB脳震盪ガイドラインの日本語最新版が出来上がりました。試合中や練習中に脳震盪が発生した場合の対応をまとめています。試合・練習前にご確認ください。
- ▶ [SCAT 2 \(SportConcussionAssessmentTool 2\)](#)
脳震盪を受傷した選手を評価する標準的な方法を示しています。10歳以上の選手に用いることができます。
- ▶ [ポケットSCAT 2](#)
SCAT 2の簡易版です。
- ▶ [『脳震盪/脳震盪の疑い』簡易判断表\(レフリー携帯用\)](#)
レフリー携帯用の簡易判断表です。レフリーの方は必ず携帯ください。
- ▶ [《報告書》](#)
[脳震盪/脳震盪の疑い報告書 2011年11月5日改正](#)
- ▶ [《証明書》](#)
[医師管理下の段階的競技復帰のための証明書 2014年6月9日改正](#)
[医師管理下でない段階的競技復帰のための証明書 2014年6月16日改正](#)
[段階的競技復帰のための証明書 競技者が高校生あるいは高専生の場合 2014年6月16日改正](#)
[段階的競技復帰のための証明書 競技者が中学生以下の場合 2014年6月16日改正](#)



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (3/9)

《脳震盪についての動画》

平成24年/25年の安全推進講習会の際に作成された脳震盪について学ぶことのできる動画です。脳震盪の疑いの症状、脳震盪の判定（質疑、バランステスト等）、脳震盪のメカニズム、復帰へのガイドライン等を学ぶことができます。

※この映像は2013年に制作されたものです。



夏季の練習についての注意ならびに夏合宿に向けて(2015年7月8日)

（通達）夏季の練習についての注意ならびに夏合宿に向けて（安全対策委員会）

夏合宿を前に

雷に関する注意

頭部打撲等により脳振盪が疑われる場合は

感染症予防について

食中毒の予防について



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (4/9)

WORLD RUGBYのコンテンツ(安全な指導方法・救急法)



■解説

ラグビーの初心者プレイヤーやコーチの方が、ラグビーをはじめるための基本をWEBで学習することができます。受講後は認定書が発行されます。JRFUのコーチ資格の義務研修のツールでもあります。日本語で受講することができます。左の画像をクリックしてお進み下さい。

“Rugby Ready”



■解説

WORLD RUGBYの安全対策に関するWEB学習システムです。受講後は認定書が発行されます。ラグビーにおける救急法等を学習することができます。日本語で受講することができます。左の画像をクリックしてお進み下さい。

長期的プレイヤー育成について PDFテキスト(日本語あり)

■解説

プレイヤーをより良く成長させるためには、各年代の身体的特徴や精神的特徴を理解していることが大事になります。特に発達過程にある中学生以下のコーチは、しっかりと自分の年代のプレイヤーの特徴を理解する必要があります。本資料には各年代の特徴がコンパクトにまとめられています。上のバナーをクリックしてお進み下さい。

子どもたちへのコーチング PDFテキスト(日本語あり)

■解説

あなたが子どもたちにコーチする際に考えるべき大事なポイントがまとめられています。中学生以下のコーチは、是非、指導の参考にしてください。上のバナーをクリックしてお進み下さい。

学校でのコーチング PDFテキスト(日本語あり)

■解説

あなたが外部コーチとして学校現場で指導する際の安全対策の考えるべき大事なポイントがまとめられています。上のバナーをクリックしてお進み下さい。



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (5/9)

H29年 安全推進講習会（育成年代のルール之最徹底・初心者への指導について）

2016年11月14日（月）より15日（火）にかけて、ラグビーにおける負傷防止対策と脳震盪教育・管理プロトコルの再評価と検討が行われる、ワールドラグビー主催第8回メディカル・コミッション・コンファレンスがロンドンで開催されました。ワールドラグビーコンファレンス・展示会（ConfEx）と同時に開催されるメディカル委員会の会議ではラグビーのみならず、スポーツ専門家や専門医の委員会が最新の研究結果とデータを再評価しながら、全てのレベルにおける競技者のケアとサポートのストラテジーについて話し合いが行われました。今年度のメディカル委員会の会議の中では育成年代の安全なルール（パスウェイ）がトピックの一つとなりました。よって平成29年度のJRFU安全推進講習会では、現行の育成年代のルール之最徹底のお願いと初心者へのラグビー指導をテーマとしました。

平成29年度安全推進講習会
（医務）

Player pathway



コーチング講習

テーマ1

World Rugbyの安全に関する動向

テーマ2

「初心者へのラグビー指導を考える」

Copyright © 2017 JRFU coaching committee All Rights Reserved.

安全推進講習会2017



ホームページでの安全対策の情報掲示 – コーチネット (6/9)

H28年 安全推進講習会 (タックルスキル・最新の脳震盪管理)

エディー・ジョーンズが率いた日本代表のタックルの考え方を学びます。正しいスキルは怪我の防止につながります。また、ピッチ上での脳震盪管理についてなど、最新の脳震盪の考え方を学びます。

PDF

**平成28年度
安全推進講習会**



Player Welfare
Putting players first

(公財)日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会

PDF

脳振盪の管理について

2016年 安全推進講習会

H27年 安全推進講習会 (WRコーチングツールの紹介と活用)

平成26年度の医務的な報告およびワールドラグビーのコーチングツールの紹介。ワールドラグビーの安全対策ツールを使って安全対策の全般的な知識を学びます。

PDF

**H27 安全推進講習会
(医務)**



(財)日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会

PDF

**H27 安全推進講習会
(コーチ)**



(財)日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (7/9)

安全推進講習会の資料

講習会の開催情報は[こちらから](#)

H26年 安全推進講習会（ラックでの安全対策・判断の必要性）

PDFでラックでの安全対策についての医務的な報告と視点を学びます。また、スキル講習ではコンタクト局面でプレーヤーに判断をさせることが怪我の防止につながることの重要性について学びます。



H24/25年 安全推進講習会（脳震盪について）

脳震盪について動画で学びます。脳震盪の疑いの症状、脳震盪の判定（質疑、バランステスト等）、脳震盪のメカニズム、復帰へのガイドライン等を学びます。※この映像は2013年に制作されたものです。



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (8/9)

H23年 安全推進講習会 (ラック編)

解説PDFと動画を使用しラックにおける安全性の確保、そのためのスキル、スキルを高めるための練習方法について学びます。また、動画ではWORLD RUGBYの安全対策についての練習方法も紹介されています。 ※この映像は2011年に制作されたものです。



H22年 安全推進講習会(体幹トレーニング)

ラグビーをプレーする上で重要な体幹の強さを鍛える為のトレーニング方法をPDFと動画で学びます。動画の構成は、体幹の重要性（ナレーション）、小・中・高校生の運動能力調査結果、大野選手のコメントなどトレーニング方法以外の内容も挿入されています。 ※この映像は2010年に制作されたものです。



ホームページでの安全対策の情報揭示 – コーチネット (9/9)

H21年 安全推進講習会（安全なタックルをするために）

ラグビーをプレーする上で重症事故発生の一番の原因となるタックル。正しいタックルスキルの習得が重症事故撲滅に寄与します。解説PDFと動画より、タックルの技術構造を再確認し、技術構造にそった練習方法を考案します。※この映像は2009年に制作されたものです。



H20年 安全推進講習会（ラグビー安全推進マニュアル）

※この映像は2008年に制作されたものです。



「安全対策」のためのマニュアル

日本ラグビー協会発行

『2016 改訂版 ラグビー外傷・障害対応マニュアル』

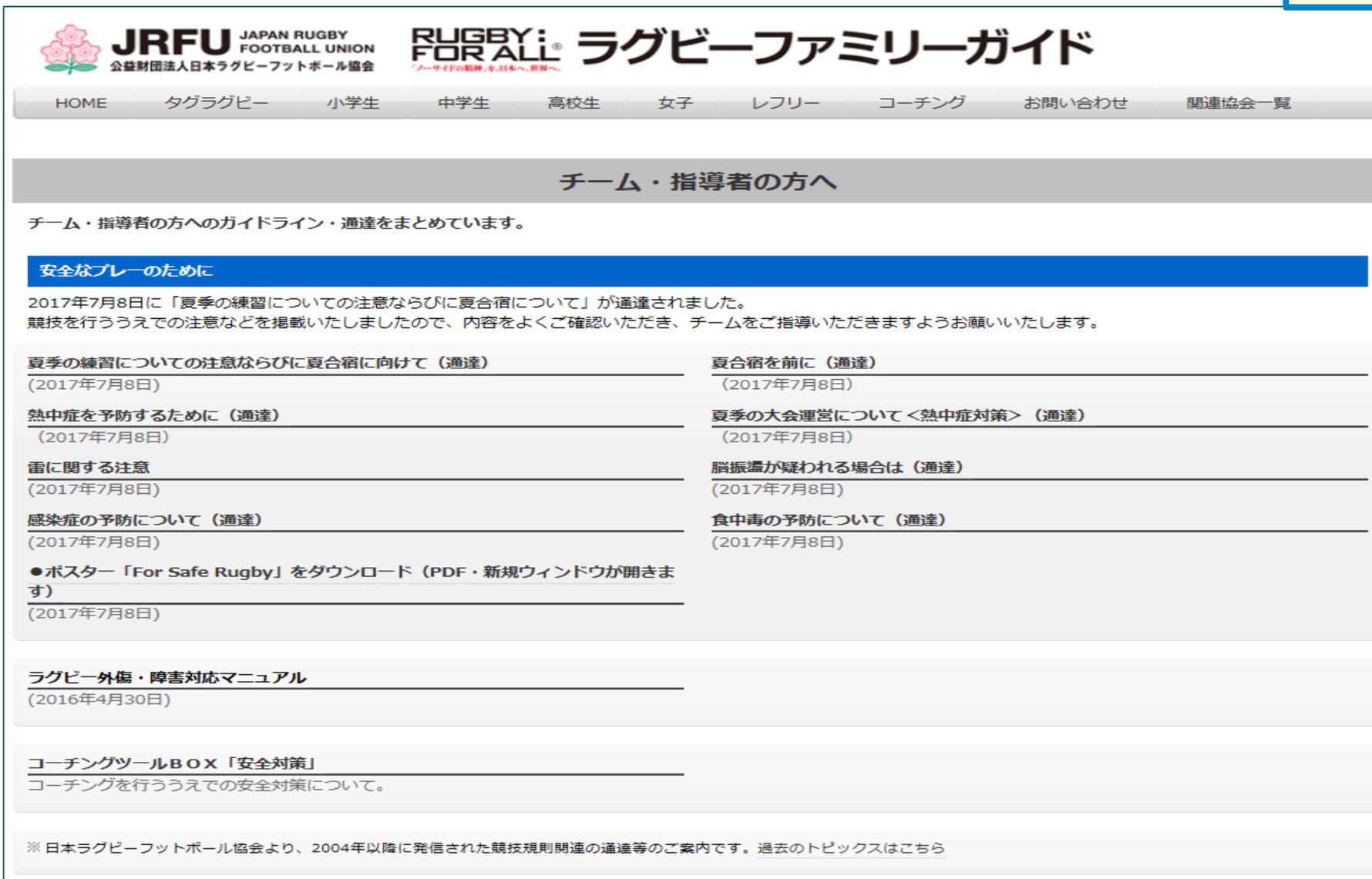
300円/冊

協会ホームページより無料で
ダウンロード可能(PDF)

[https://www.rugby-japan.jp/wp-content/
uploads/2016/10/
gaisho_shogai_taio_manual_2016.pdf](https://www.rugby-japan.jp/wp-content/uploads/2016/10/gaisho_shogai_taio_manual_2016.pdf)



ホームページでの「安全対策」の情報掲示-ラグビーファミリーガイド



The screenshot shows the JRFU Rugby Family Guide website. At the top, there is a navigation bar with links for HOME, タグラグビー, 小学生, 中学生, 高校生, 女子, レフリー, コーチング, お問い合わせ, and 関連協会一覧. Below the navigation bar is a main header with the JRFU logo and the text 'ラグビーファミリーガイド'. The main content area is titled 'チーム・指導者の方へ' and contains a section for '安全なプレーのために'. This section lists several notices from July 8, 2017, regarding summer practice, summer camps, heatstroke prevention, lightning safety, infection prevention, and food poisoning prevention. There are also links to a manual for injuries and a coaching tool box for safety measures. A footer note mentions that the information is from the JRFU website as of 2017.



ホームページでの「安全対策」の情報掲示-ラグビーファミリーガイド

脳振盪への対応

脳振盪か否かの判断と、その後の対処についてまとめているので、ご確認いただき適切な対応を取るよう心がけてください。

脳振盪が疑われる場合は（通達）

(2017年7月8日)

脳振盪ガイドライン(日本語最新版)

IRB脳振盪ガイドラインの日本語最新版が出来上がりました。試合中や練習中に脳振盪が発生した場合の対応をまとめています。試合・練習前にご確認ください。

SCAT 3 (Sport Concussion Assessment Tool 3)

脳振盪を受傷した選手を評価する標準的な方法を示しています。10歳以上の選手に用いることができます。

ポケットSCAT 3

SCAT 3の簡易版です。

「脳振盪/脳振盪の疑い」簡易判断表(レフリー携帯用)

レフリー携帯用の簡易判断表です。レフリーの方は必ず携帯ください。

《報告書》

脳振盪/脳振盪の疑い報告書

2017年3月22日改正

《証明書》

医師管理下の段階的競技復帰のための証明書

2014年6月9日改正

医師管理下でない段階的競技復帰のための証明書

2014年6月16日改正

段階的競技復帰のための証明書

競技者が高校生あるいは高専生の場合
2014年6月16日改正

段階的競技復帰のための証明書

競技者が中学生以下の場合
2014年6月16日改正



ホームページでの「安全対策」の情報掲示-ラグビーファミリーガイド

アンチ・ドーピング

アンチ・ドーピング宣言

暴力行為根絶宣言

暴力行為根絶宣言(通知)

日本ラグビーフットボール協会からの通知です。
(2013年5月9日)



「安全対策」のためのマニュアル

「スポーツリスクマネジメントの実践」(日本体育協会ホームページ)

「スポーツリスクマネジメントの実践」 -スポーツ事故の防止と法的責任-



「スポーツリスクマネジメントの実践」 -スポーツ事故の防止と法的責任-

スポーツにはケガが付きものである、と言われています。しかし、意識不明の重体や死亡に繋がる事故は、指導者がリスクマネジメントの意識を持つことで防ぐことができます。

本書は平成21年度から平成25年度の5年間の間で全都道府県において実施したリスクマネジメント研修会の内容を、各地で出た質疑応答の内容も含めて取りまとめたものです。

クラブの事故防止に役立てられるよう、ぜひご活用ください！

A4判 全103ページ 白黒

- ・ App Store iTunesでダウンロード⇒[コチラ](#)から！
- ・ Google Play Androidでダウンロード⇒[コチラ](#)から！
- ・ Web Bookは[コチラ](#)から！

<http://www.japan-sports.or.jp/publish/local/tabid/936/Default.aspx>



「安全対策」のための情報

「熱中症を防ごう」(日本体育協会ホームページ)

スポーツ医学・科学研究
熱中症を防ごう



熱中症とは、暑熱環境で発生する障害の総称で、「熱失神」、「熱疲労(熱ひはい)」、「熱射病」、「熱けいれん」に分けられます。
 スポーツによる熱中症事故は、適切に予防さえすれば防げるものです。しかしながら、予防に関する知識が十分に普及していないため、熱中症による死亡事故が毎年発生しています。とくにこの数年、猛暑の夏が続き熱中症の危険性も高くなっています。
 日本体育協会では、熱中症予防の原則を「熱中症予防5ヶ条」としてまとめ、熱中症事故をなくすための呼びかけを行っています。

▶ **熱中症の病型と救急処置**

- [病型](#)
- [救急処置](#)
- [熱射病が疑われる場合の身体冷却](#)

▶ **スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック**



- [PDFのダウンロードはこちら>>>](#)
- [有料販売の申込はこちら>>>](#)

※[スポーツ活動中の熱中症予防\(動画\)](#)も紹介しています>>>

[夏のトレーニング時の注意点\(夏のトレーニング時必見ページ\)](#)はこちら>>>

[大塚製薬株式会社のホームページでも熱中症予防の情報をご覧になれます。大塚製薬「熱中症からカラダを守る」ページ>>>](#)

▶ **スポーツ活動中の熱中症予防5ヶ条**

1. [暑いとき、無理な運動は事故のもと](#)
2. [急な暑さに要注意](#)
3. [失われる水と塩分を取り戻そう](#)
4. [薄着スタイルでさわやかに](#)
5. [体調不良は事故のもと](#)

▶ **熱中症予防のための運動指針**

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/523/Default.aspx>



「安全対策」のためのマニュアル

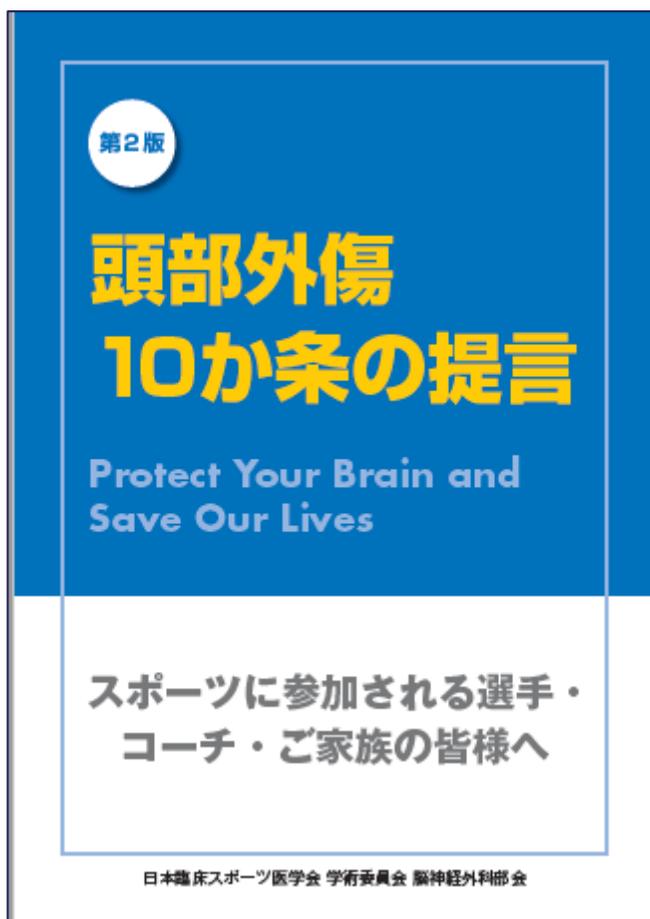
スポーツ安全協会発行
『スポーツ外傷・障害予防ガイドブック』

スポーツ安全協会ホームページより
無料でダウンロード可能(PDF)

<http://www.sportsanzen.org/publish/publish.html>



参考資料 「頭部外傷10か条の提言」



一般社団法人 日本臨床スポーツ医学会
学術委員会 脳神経外科部会

近年、スポーツ現場における頭部外傷、脳振盪への関心が高まっています。

ここ数年でいくつかの指針や提言が発表され、専門家のあいだでは徐々に認識が共有されつつありますが、一般の皆様にはまだ、おなじみでないことが多いように感じます。

そこで、私たちはこのほど「頭部外傷10か条の提言(第2版)」という小冊子を作成しました。

スポーツに関わるコーチや選手、ご家族の助けになることが主な目的で、専門的な知識を持たれない方々にもお読みいただけるよう、できるだけ平易な表現を心がけました。

が、それでも内容は難解です。目次にある「10か条」に目をお通しいただき、気になった項目だけをお読みくださるのでもかまいません。

皆様のお役に立つことを願っています。

<https://concussionjapan.jimdo.com/>



1. 安全対策への取り組み

2. 傷害状況と対応について

3. 安全管理プロセスについて

4. Integrity の推進

JRFUからのお願い

- 登録管理システム対応



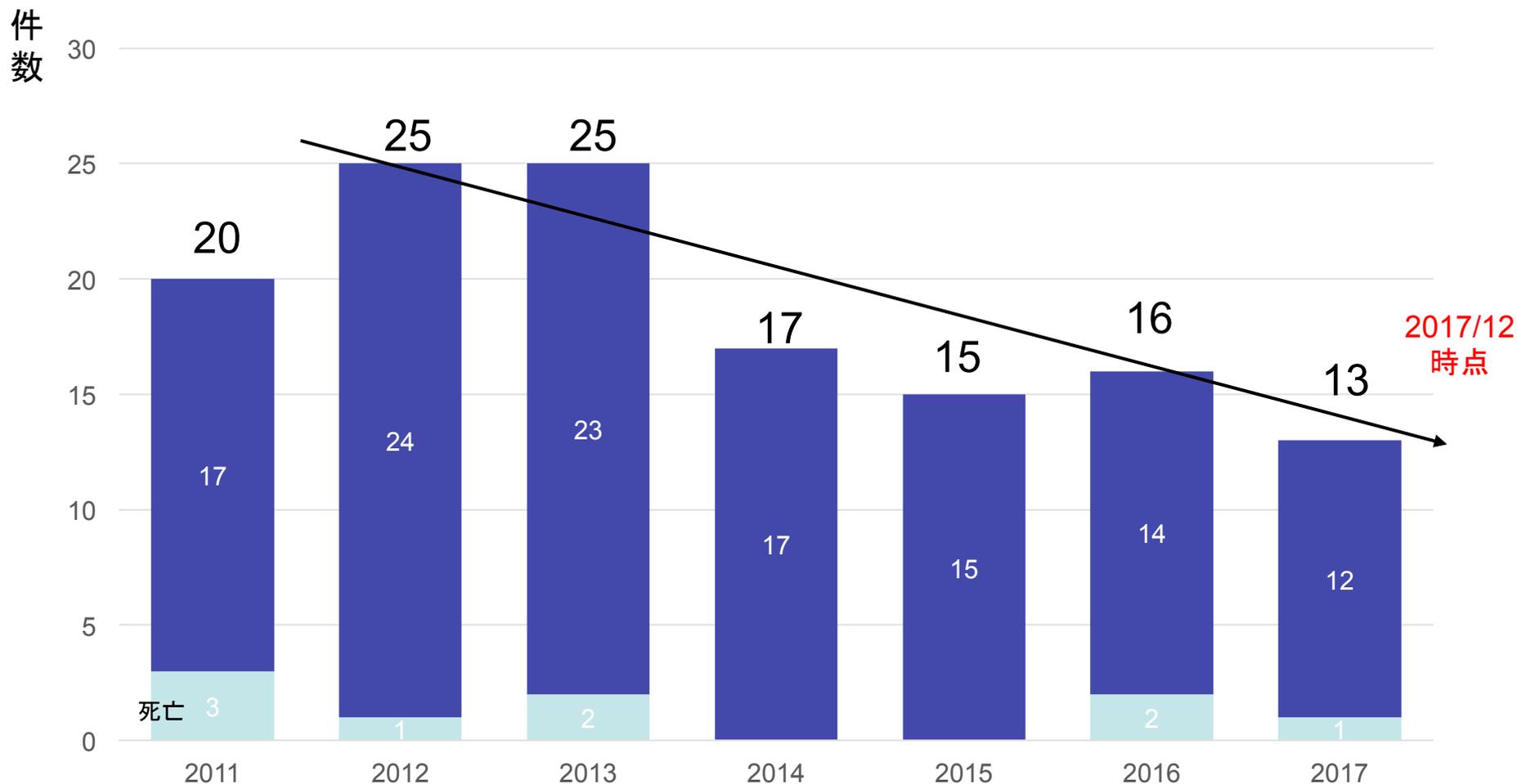
重症傷害の定義

- 重症傷害は次のように定義される
 - 死亡
 - 頭蓋骨折の有無に関係なく24時間以上の意識喪失を伴う障害
 - 四肢の麻痺を伴う脊髄損傷
 - 開頭および脊椎の手術を要したもの
 - 胸・腹部臓器で手術を要したもの
 - 上記以外で診断書で重症と思われるもの



重症傷害件数の推移 (2011 - 2017/12)

重症傷害報告は全体として減少傾向にあるが、ゼロ化に向けた対策が求められる。



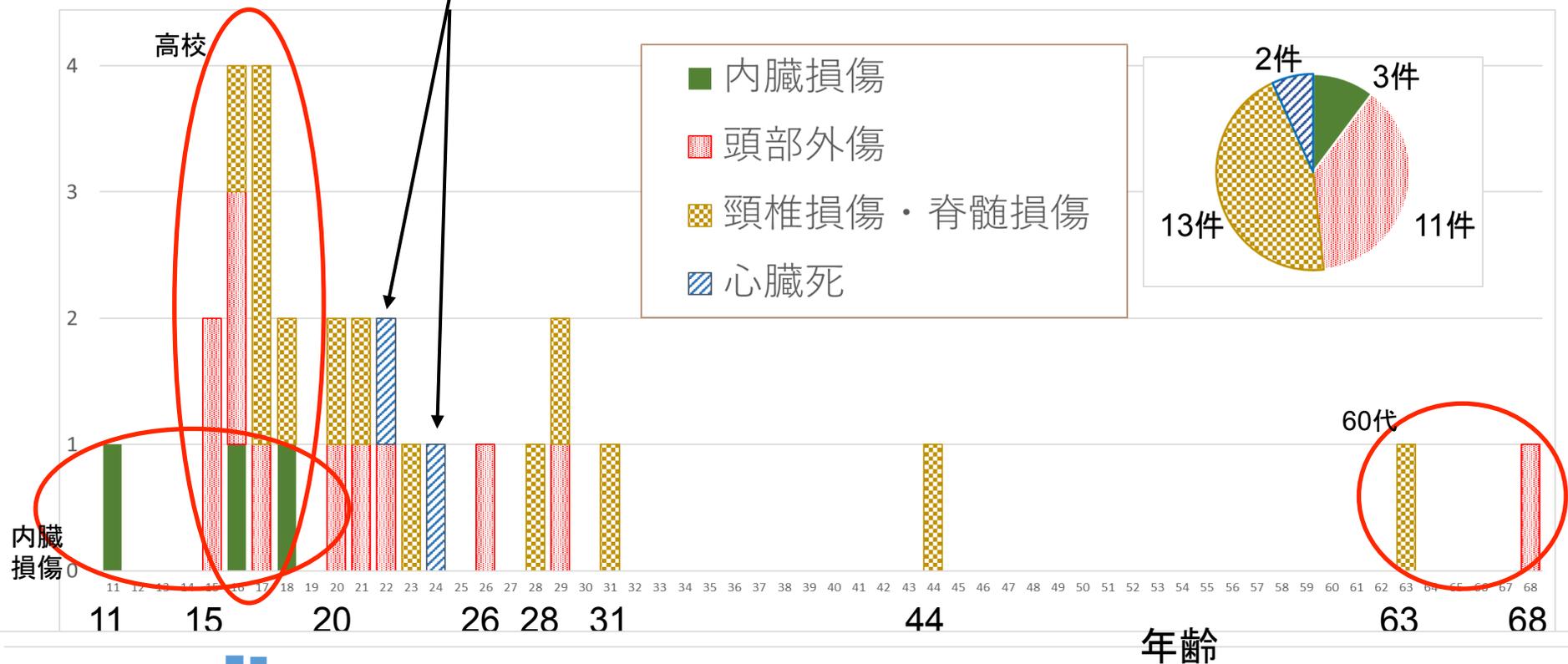
重症傷害分析 (2016/4 - 2017/12)

2016年4月から2017年12月までの重症傷害 29件を対象に分析

高校生	12件
クラブ	9件
大学生	5件
社会人	2件
スクール	1件

- 2016年度 16件 2017年度 13件(12月まで)
- 内臓損傷3件は10代のみ (含. 小5男子、高3女子)
- 心臓死2件は20代前半

件数



重症事故対応について

- 重症事故発生を防ぐとともに、発生時に適切な対応ができるように準備すること。
- 意識/気道/呼吸/循環のチェック、動かさない、コミュニケーションを取る

• 頭部外傷

急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、クモ膜下出血、脳挫傷、頭がい骨骨折など

救急車/病院受診の手配。
(脳振盪に対しては脳振盪ガイドラインを理解し、SCATを適切に使用して重症化を避ける。)

• 頸椎損傷・脊椎損傷

頸椎損傷、頸椎脱臼、頸椎亜脱臼、頸椎歯突起骨折、脊椎損傷、胸椎不全損傷など

頸椎・脊椎の安静と救急車/病院受診の手配

• 内臓損傷

腎臓破裂、脾臓破裂など

内臓損傷は、受傷してから数時間後に症状が悪化することがあるので、注意が必要。

• 心臓

心臓震盪、心筋梗塞、外因性心臓死、内因性心臓死など

AEDの設置場所の確認、AED研修の実施が必要。



協会の安全対策の制度

(重症傷害報告、脳振盪報告、HIA、見舞金制度)

• 重症傷害報告

事故発生後、3日以内に都道府県協会に報告する。不明の点は後日判明次第報告のこと。死亡以外の重症傷害については、第一回目の報告後、2カ月後と6カ月後にその後の病状を報告する。

<https://www.rugby-japan.jp/future/documents/serious/>

• HIA(Head Injury Assessment)

脳振盪の疑いのある選手を一時退出させ、HIAの専門的な講習を受けたマッチドクター、チームドクターにより脳振盪を確認する。評価に充てる時間は最大10分間で、その間は一時的に交替の選手が出場可能。脳振盪ではないと判断された場合には試合に戻ることができる。(トップレベルの試合で適用)

<http://www.top-league.jp/2016/07/11/id35311/>

• 脳振盪報告

「脳振盪／脳振盪の疑い報告書」はチーム責任者・担当レフリー・マッチドクターに義務づけられ、各々が報告書を提出することになっている。(試合/練習) 提出先は、大会であれば大会本部が主管する実行委員会または支部協会。高校生の場合は都道府県高体連ラグビー専門委員長となる。

<https://www.rugby-japan.jp/future/documents/>

• 見舞金制度

登録されているプレーヤー及びチーム関係者に「見舞金給付表に該当する傷害」が発生した場合、チームの代表者は「傷害報告書1(見舞金請求書)、傷害報告書2」に必要事項を記入の上、30日以内に都道府県協会に提出する。

<https://www.rugby-japan.jp/future/documents/mimaikin/>



重症傷害報告書

協会ホームページよりダウンロードして利用ください。→ <https://www.rugby-japan.jp/future/documents/>

重症傷害報告書(受傷時)

(7) 試合：前半・後半__分発生 練習：開始__分発生
 (8) ビデオ 有・無
 (9) マッチド
 (10) グラウ
 (11) 受傷時

一書式5-

全国協会 安全対策委員会 委員長	三地域協会 安全対策委員会 委員長	日本協会 安全対策委員会 委員長
------------------------	-------------------------	------------------------

重症傷害報告書(受傷時) (様式(1))
 西暦 年 月 日

財団法人
日本ラグビーフットボール協会 殿

〒 都道府県協会名
 チーム名称
 チーム責任者氏名

記

1. 受傷者
 (1) 氏名 _____ (2) 年齢 才 生年月日 西暦 年 月 日
 (2) 所属(学校・会社・クラブ名・その他) _____ (学年) _____
 (3) 現住所 〒 _____
 (4) ポジション No. _____ (5) ラグビー経験年数 _____ 年

2. 受傷時の病名
 (1) 分類(該当する番号に○印を付けてください)
 ①頭蓋骨骨折の有無に関係なく24時間以上の意識喪失を伴う障害
 ②四肢の麻痺の伴う脊髄損傷 ③死亡 ④聴覚および視覚の機能を喪失したもの
 ⑤脳・脳底脳幹部で手術を要したものを ⑥⑦⑧のほかに診断書で確認と思われるもの
 (2) 手術の有無 有・無・予定 _____ 手術名 _____

3. 受傷時の症状
 (1) 意識喪失の有無について： 有・無
 有に○をつけた場合、その意識喪失の期間： _____ 時間、または _____ 日
 (2) 四肢麻痺について： 有・無
 有に○をつけた場合、その部位： 右上肢・左上肢・右下肢・左下肢
 (3) その他(脳脊髄損傷・頭頸部障害など)

4. 受傷時の状況
 (1) 発生日 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 分ごろ
 (2) 場所 _____
 (3) 天候 晴れ・曇り・雨・雪 気温 _____ で 湿度 _____
 (4) グラウンドコンディション 芝・土・人工芝 硬さ 硬い・普通・柔らかい
 (5) 練習・試合の別 試合・練習・練習試合 _____
 (6) 受傷機転
 タックルして・タックルされて・スクラム・ラック(集ラック・ジャッカル・ランディング・その他)・モール・衝突・その他(_____)

38

重症傷害報告書(2ヶ月後・6ヶ月後)

(2) 麻痺の状態
 有・無 どちらかを選んで有の場合以下の選択項目に○印を付けてください
 [右上肢、左上肢、右下肢、左下肢] に麻痺あり。
 [右手、左手] で食事ができる。

調査者
 官もろ
 専科
 職長
 職長
 職長

全国協会 安全対策委員会 委員長	三地域協会 安全対策委員会 委員長	日本協会 安全対策委員会 委員長
------------------------	-------------------------	------------------------

重症傷害経過報告書[2・6ヶ月後] (様式(2))
 西暦 年 月 日

公益財団法人
日本ラグビーフットボール協会 殿

〒 都道府県協会名
 チーム名称
 チーム責任者氏名

記

1. 受傷者氏名 _____
 2. 受傷時の病名 _____
 3. 確定診断名
 (1) 頭蓋・頭蓋内損傷： (イ)頭蓋骨骨折 (ロ)硬膜外血腫 (ハ)急性硬膜下血腫 (ニ)脳挫傷
 (ホ)脳内出血 (ヘ)その他(_____)
 (2) 脊髄損傷
 部位： C₁ C₂ C₃ C₄ C₅ C₆ C₇ C₈ その他 _____
 脱臼： 有・無 _____ 骨折： 有・無 _____

4. 治療
 1. _____ 2. _____

5. 現在の状態
 (1) 意識
 (イ)目：(イ)自然に開けている (ロ)呼びかけてあるいは刺激で開ける
 (ハ)閉じたままでない
 (2)痛み刺激：(イ)刺激にはらひのける (ロ)刺激に顔をしかめる
 (ハ)刺激にまったく反応しない
 (3)手足反応：(イ)命令にて上手に動かす (ロ)命令にて上手に動かさない
 (ハ)命令にてまったく動かさない
 (4)会 話：(イ)普通にできる (ロ)普通にできない
 (ハ)まったくできない

報告者氏
 住所 〒 _____

- 12 -



スポーツ事故と法的責任

- スポーツ事故における判例において事故防止に対する科学的・医学的知識があることを前提として、指導者の責任を認めたものが増えている。「知らなかったではすまされない。」
- スポーツ事故、リスクマネジメントについての情報収集、対応検討が必要となっている。(ex. 賠償責任に対応するための保険加入検討)

事例1 2016年12月 東京地裁判決

2012年6月サッカー社会人4部リーグの試合中に足を骨折した男性が、接触した相手チームの男性及びその所属していたチームの代表者である男性に対して、損害賠償請求訴訟を提起したところ、請求を247万4761円の範囲で認容した。

→ 参考情報 <http://jsl-src.org/>
一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター

事例2 2017年4月 福岡地裁判決

2011年3月高校の校内大会のクラス対抗の柔道の試合で高校1年生の男子生徒が試合中に転倒し、畳で頭部を打って頸髄損傷を発症し四肢麻痺の重い後遺症が残った。裁判長は安全配慮義務に違反したとして約1億2400万円の支払いを県に命じた。



参考書籍 「スポーツ事故対策マニュアル」



著者 弁護士によるスポーツ安全対策検討委員会
出版社 株式会社体育施設出版
定価 ¥3,600

＜本書の内容＞

弁護士が各種目の競技団体などからヒアリングを行い、事件事例、事故判例を収集分析。法律の専門家としての立場から、スポーツ事故発生の問題点を解説しています。さらに、附録には、スポーツ事故関連法の解説を収録するなど、さまざまな情報を網羅させました。

1章で、スポーツ事故の種類、判例から見る事故類型、法的責任の所在などについてまとめています。2章・3章では競技種目／施設ごとに起こり得る事故についての対策、法的問題点などをまとめました。4章では、1～3章を踏まえて、事故を起こさないためになさねばならないことを、さまざまな角度からまとめています。また、体罰、暴力、いじめ、イップスなども広義のスポーツ事故であると考え、法的問題点について解説をしています。



参考資料 「スポーツと法」

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/ikusei/doc/k2-23.pdf>

第 2 章

スポーツと法

スポーツに事故はつきものであり、指導者が法律上の責任を問われることもある。セクシュアル・ハラスメントや暴力行為などモラルにかかわる問題も同様であることを、具体的な判例などと共に学ぶ。

- 1 スポーツ事故における
スポーツ指導者の法的責任
- 2 スポーツと人権

(日本体育協会ホームページより)

スポーツは、傷害の危険を伴い、事故が発生しやすい。スポーツ事故に関する危機管理手法(リスクマネジメント)を学び事故を抑止し、被害を最小限度にとどめる手法を学ぶ。スポーツ基本法は、外傷だけでなく、障害の予防も規定しており、障害の予防についても留意しなければならない。また、民事・刑事の基礎知識を学び、不幸にしてスポーツ事故に遭遇したときの法的責任に関し理解する。



各種保険の活用

- スポーツ安全保険
- スポーツ・文化法人責任保険
 - 問い合わせ先 (公財) スポーツ安全協会
<http://www.sportsanzen.org/hoken/>
- 学生教育研究災害傷害保険 (大学生向け)
 - 問い合わせ先 (公財) 日本国際教育支援協会
<http://www.jees.or.jp/gakkensai/index.htm>

その他

- ボランティア活動等災害補償保険
- レクリエーション保険 など

- 日本ラグビーフットボール協会傷害見舞金制度
 - あくまでも見舞金制度であり、高額の治療費及び高額な賠償金を支払う場合には対応できない。
 - 問い合わせ先 都道府県ラグビーフットボール協会



各種保険の活用(続き)

- スポーツ安全協会が提供する傷害保険/賠償責任保険

傷害保険と賠償責任保険の目的・制度を正しく理解して利用する。

保険加入主体		傷害保険	賠償責任保険
個人 (任意団体)	選手	スポーツ安全保険	
	コーチ・スタッフ		
法人			スポーツ・文化 法人責任保険



用具・練習環境へのガイド

・ プレーヤーの用具

用具	目的・考慮点など
ヘッド キャップ	頭部と耳の外傷を防ぐ。頭部への直接的な衝撃への保護効果がある。
マウスガード	マウスガードは歯と、その周りの軟部組織を保護し、顎顔面外傷の予防に役立つ。脳振盪予防の効果も期待できる。
パッド	打撲・切り傷・擦り傷などへの対応に有効。

・ 練習環境/医務用具

用具	目的・考慮点など
グラウンド	周辺のフェンスや囲いなどとの十分な距離の確保。(min 3m) ゴールポストが適切なパッドで覆われていること。
練習用具	スクラムマシン、タックルダミーなどの安全性確認
医務用具	救急対応に必要とされるものを整備 AEDは心臓震盪対応に必須



競技規則と安全

- 安全を重視した規則改正が実施されてきた。
- 規則改正の意味・目的を正しく理解して、対応することが求められている。

【競技規則制定の原則】

- 安全性 →
- 平等な参加機会
- 独自性の維持
- プレーの継続
- プレーする喜びと観る楽しさ
- スペースの確保
- 報償、失敗と罰則
- 一貫/遵守/簡潔
- ローブックの普遍性

<主な規則改正>

- 1968年 負傷選手の交代が可能
- 1988年 メディカルサポーター制度導入
- 1996年 シンビン 危険なプレーの10分間退場
- 2003年 ウォーターブレイク制度導入
- 2006年 19歳以下はマウスガード装着
- 2009年 危険なタックルの厳罰化
(ハイ、スピア、ノーバインド等)
- 2011年 脳振盪/脳振盪の疑いで退場
- 2012年 スクラムの組み方変更(3段階コール)



1. 安全対策への取り組み

2. 傷害状況と対応について

3. 安全管理プロセスについて

4. Integrity の推進

JRFUからのお願い

- 登録管理システム対応



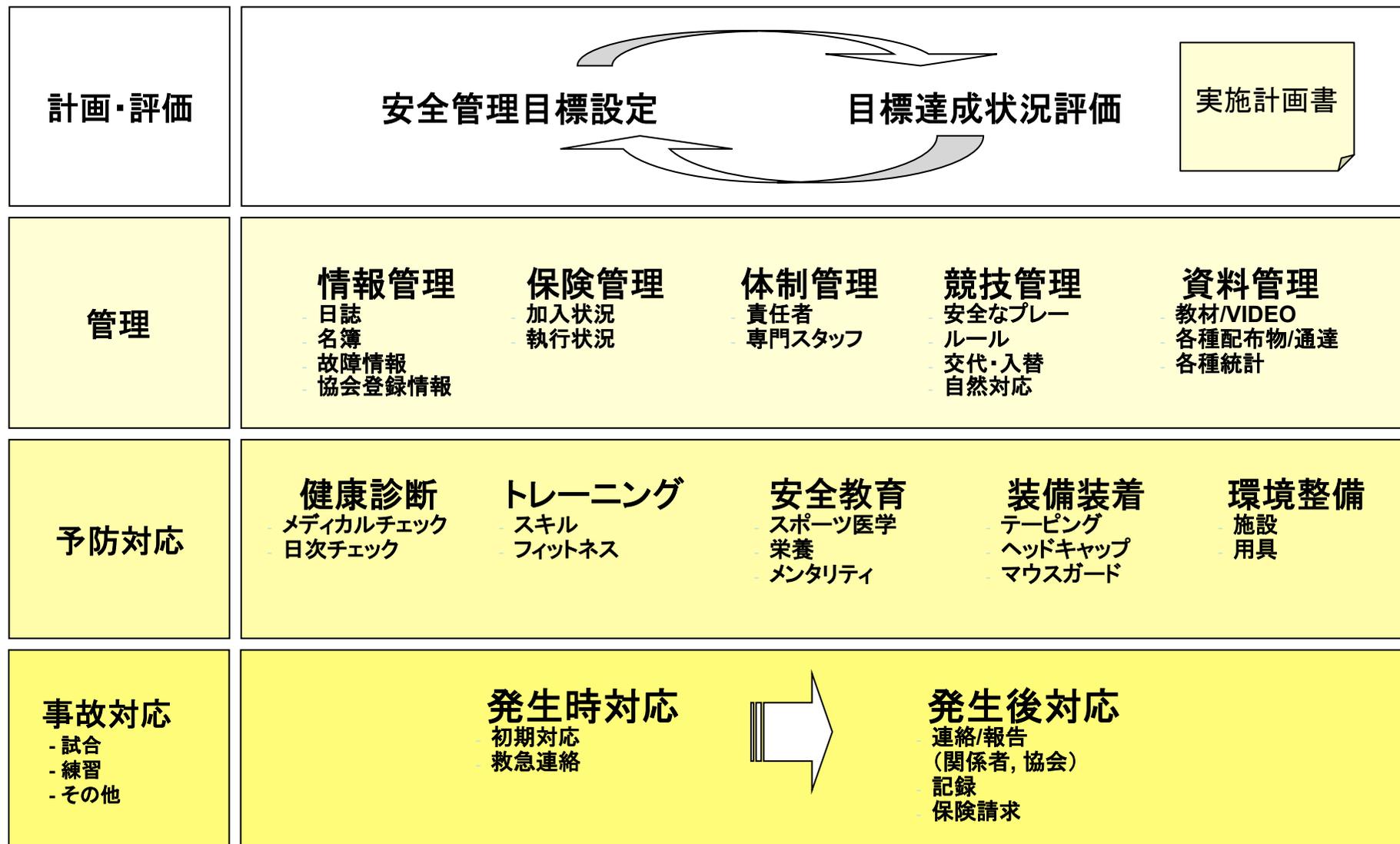
Rugbyにおける安全管理プロセスの整備

チームとして安全管理に取り組むうえで
考慮すべきコンポーネントを整理



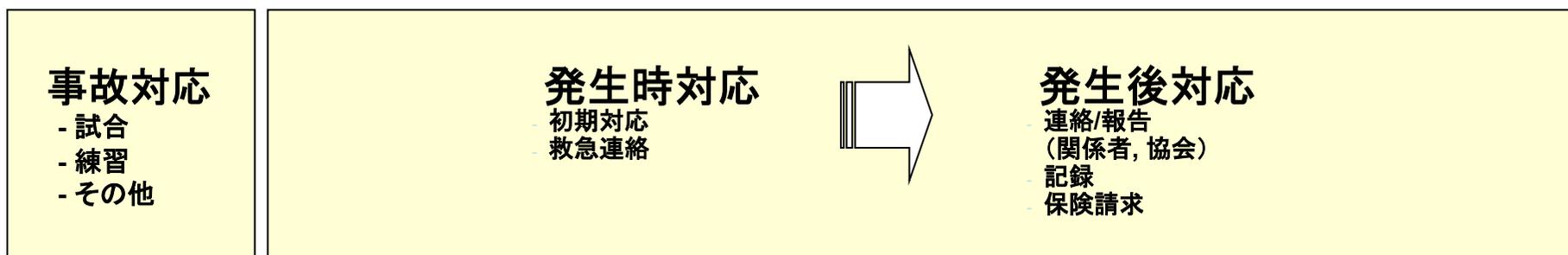
Rugbyにおける安全管理プロセスの整備

実施計画書をもとに、日々の安全対策を実施し、定期的・非定期的な点検のもとに管理を進める。



事故対応

- 事故が発生したときの対応
- 現場での適切な対応が必要であり、そのための準備が求められる。
- 説明責任を果たすことのできる文書化が必要。



発生時対応

救急対応の有資格者の有無
 救急対応手順の整備
 (ex.救急車の呼出手順、熱中症・過呼吸への対応)

発生後対応

報告

- 関係部門(協会/会社/学校など)への報告
- 部内(監督・コーチ・OB会)への報告
- 保護者への報告

保険処理

- 保険請求(スポーツ安全保険など)
- 見舞金請求(日本ラグビー協会)

事故の記録

- ・ 記録者
- ・ 記録項目
- ・ 記録内容の確認者



予防対応

- 安全管理を実現するための予防対応
- チームレベルと個人レベルの両面からの取り組みが必要。

<p style="text-align: center; font-weight: bold;">予防対応</p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> - メディカルチェック - 日次チェック 	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> - スキル - フィットネス 	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">安全教育</p> <ul style="list-style-type: none"> - ルール - スポーツ医学 - 栄養 - 法的責任 - メンタリティ 	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">装備装着</p> <ul style="list-style-type: none"> - テーピング - ヘッドキャップ - マウスガード 	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> - 施設 - 用具
--	--	--	--	---	---

□健康診断
 定期的チェック
 合宿時チェック
 メディカルチェック
 脳振盪対応 SCAT2

□トレーニング
 安全にプレーするためのトレーニング
 基本フィットネス・基本スキル
 基本姿勢
 基本体力・筋力

□安全教育
 全員が知っておくべきことの教育を実施
 担当する部員・関係者への専門教育の実施
 安全のための勉強

- スポーツ医学
- スポーツ事故関連の法律

安全にプレーするためのメンタリティ
 集中力やコミュニケーション力の不足・低下を防ぐ

□安全のための装備
 ヘッドキャップ
 各種サポーター
 マウスピース
 テーピング
 ゴーグル

□施設・設備・備品の管理
 グラウンド評価・管理
 老朽化したスクラムマシンの管理
 やぐら (強風・荒天での設置基準)
 テント (強風・荒天での設置基準)

安全対応の備品の管理
 ・救急医療対応備品
 ・タンカ/ストレッチャー
 ・AED
 ・テーピング/キオシネ

■ 安全管理を実現するための基盤整備

<h3>管理</h3>	<h4>情報管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> - 日誌 - 名簿 - 故障情報 - 協会登録情報 	<h4>保険管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> - 加入状況 - 執行状況 	<h4>体制管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> - 責任者 - 専門スタッフ 	<h4>競技管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> - 安全なプレー - 交代・入替 	<h4>資料管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> - 教材/VIDEO - 各種統計
-------------	--	--	---	---	--

□情報管理

日々の活動の基本となる情報の管理を行う。

- ・日誌 : 練習・試合の基本的情報の管理
- ・名簿 : 個人情報の管理 (ex. 緊急時の連絡先)
- ・故障情報 : 故障状況の管理
- ・協会登録情報 : 協会登録情報の管理

□保健管理

- ・スポーツ安全保険など
- ・ラグビー協会の見舞金制度

確実な加入と事故発生時の申請
加入状況の把握とともに管理プロセスの文書化

□安全管理体制

- ・部内
責任者／実務担当者／メンバーなど
- ・部外
医療関係のサポーターなど

責任範囲の明確化が必要

□資料管理

- ・参考図書
ラグビーマガジン
ラグビークリニック
「ラグビー外傷・障害対応マニュアル」
(日本ラグビー協会発行)
- ・参考となるホームページ
日本ラグビー協会
日本体育協会

□競技管理

安全のためのプレー

- ・プレーの基準が”安全”を意識して設定されているか。
- ・日本ラグビー協会安全委員会から提供されているタックル・ラックへのガイドが理解されているか。

安全のためのルールの理解

スクラム：コラプシング、フットポジション、
タックル：ローヘッド、ハイタックル、スコップ
ラック・モール：コラプシング
ラインアウト：リフティング

自然対策（競技をする上で、自然環境の変化への適切な対応が必要）

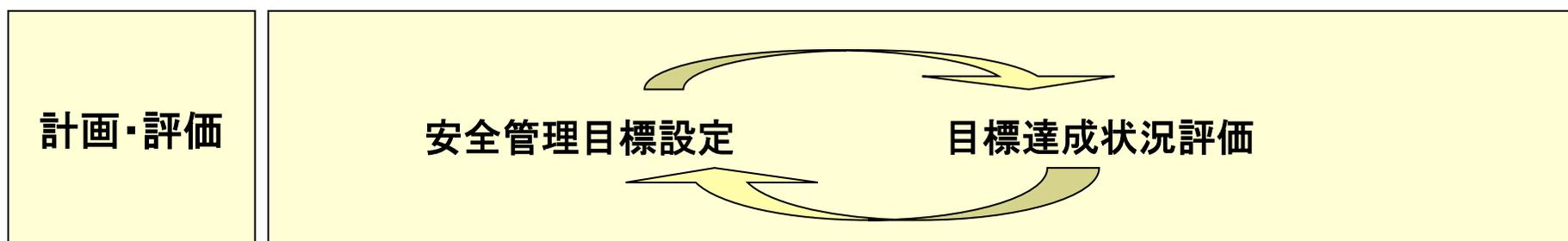
判断基準と判断の責任者の明確化

- ・高温・高湿度への対応
- ・災害発生時の対応
- ・雷対応



計画・評価

- 安全管理における各項目の現状を評価し目標を設定する。
- 目標の達成状況を定期・非定期に評価して、目標変更を含めて必要な対応を行う。(日次/週次/月次/年次)
- 目標の設定・達成状況の評価を適切なメンバーが行う。



- ・目標の設定 : どうありたいのか。どうでなければならないのか。
- ・現状の評価 : どの程度の達成状況なのか。課題は何か。
- ・実績レポート作成 : 内部向け、外部向けの説明資料・報告資料
- ・実績報告 : 説明実施・報告実施(含む分析・評価+対策検討)
- ・評価の仕組み : プロセス整備、メンバー選定



1. 安全対策への取り組み
2. 傷害状況と対応について
3. 安全管理プロセスについて

4. Integrity の推進

JRFUからのお願い

- 登録管理システム対応



“Integrity of Sport” = **スポーツの完全性・高潔性**

スポーツにおける「インテグリティ」とは、
「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」にあることを指す。

Integrity of Sportを脅かす要因



「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」 (日本体育協会ホームページ)

スポーツ指導者のための倫理ガイドライン

スポーツの意義や価値が改めて問われている昨今、日本体育協会では、スポーツ指導者の望ましい考え方や行動についてガイドラインを策定いたしました。

本ガイドラインでは「スポーツの価値」「プレーヤーズファースト」「フェアプレー」の視点から、安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートするためのプレーヤーと指導者の望ましい関係づくりについて解説しています。

また、暴力やハラスメントなどの反倫理的行為が起きる背景や影響、指導者としての注意点なども網羅しています。

スポーツ指導者はもちろんのこと、保護者や審判員、運営担当者など、スポーツに関わるすべての方に一読いただき、本ガイドラインの趣旨を共有することで、スポーツ界から反倫理的行為を根絶するための一助となれば幸いです。



<内容>

- I. スポーツの意義と価値
- II. スポーツ指導者の役割
- III. スポーツ指導者の心得
- IV. 倫理的問題が起こらないために
- V. 資料編

全文ダウンロード 

<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/677/Default.aspx#book01>

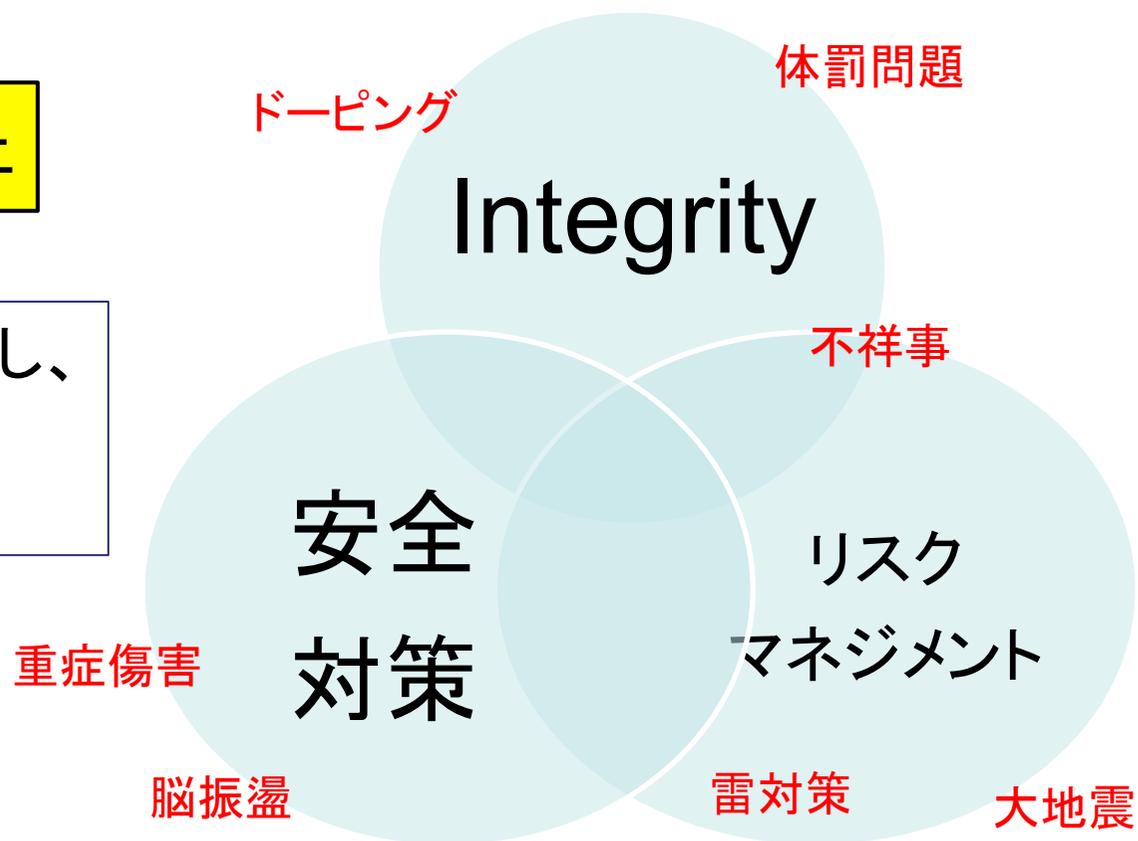


Integrityの追求=安全対策の向上

”Integrity”を支える高い運営品質を追求することが、安全対策の向上につながる。

組織の運営品質向上

すべきことを明確にし、
必要な体制を整えて、
確実に実践する。



1. 安全対策への取り組み
2. 傷害状況と対応について
3. 安全管理プロセスについて
4. Integrity の推進

JRFUからのお願い

- 登録管理システム対応



日本ラグビーフットボール協会新登録管理システム

<http://rugbyfamily.jp/>

- 2011年よりスタートしたインターネットを利用した登録手続き
- インターネットで常に登録情報の更新・確認が可能

No	氏名(漢字) 必須		氏名(カナ) 必須		氏名(ローマ字)		性別 必須	生年月日 必須(※1)	身長/体重		所属区分 (※2)	パスワード 必須(※3)
	姓	名	セイ	メイ	SEI	MEI			cm	kg		
1							○男性 ○女性	年 月 日				0714
2							○男性 ○女性	年 月 日				0714
3							○男性 ○女性	年 月 日				0714
4							○男性 ○女性	年 月 日				0714
5							○男性 ○女性	年 月 日				0714
6							○男性 ○女性	年 月 日				0714
7							○男性 ○女性	年 月 日				0714
8							○男性 ○女性	年 月 日				0714
9							○男性 ○女性	年 月 日				0714
10							○男性 ○女性	年 月 日				0714

次の観点より重要な情報となりますので、正しく登録・変更を行うようにしてください。

- 大会・試合の参加条件
- 見舞金制度適用
- 日本ラグビー協会の活動における基本情報

所属区分の入力にご協力をお願いします。
 プレーヤーのみは空欄で可
 それ以外の登録は該当する番号をすべて入力
 ex. プレーヤー兼セーフティーアシスタント：4 6
 (1:代表者・2:監督・3:コーチ・4:プレーヤー・5:マネージャー・6:セーフティーアシスタント・7:トレーナー・8:チームドクター)



2016年度登録状況(日本ラグビー協会HPより)

登録チーム数 3,026 / 登録プレーヤー数 96,049

2017/3/31時点

2017/3/31現在

項目	チーム		選手						チーム役員						総合計	構成比	前年度実績	前年比	増減率								
	前年比	年齢	男	前年比	女	前年比	計	前年比	男	前年比	女	前年比	計	前年比													
小学校	4	1	6歳~12歳未満	102	32	12	2	114	34	4	▲13	0	0	4	▲13	118	0.1%	97	21	21.6%							
ラグビースクール	418	11	6歳未満	2,249	332	307	70	2,556	402	4,878	259	135	10	5,013	269	30,527	27.9%	27,650	2,877	10.4%							
			6歳~12歳未満	16,275	1,837	1,855	239	18,130	2,076												12歳~15歳未満	4,541	94	287	36	4,828	130
ジュニアクラブ	20	0	12歳未満	368	56	40	8	408	64	141	9	4	0	145	9	856	0.8%	801	55	6.9%							
			12歳~15歳未満	220	▲32	28	1	248	▲31												15歳~18歳未満	41	▲2	14	8	55	6
			15歳~18歳未満	41	▲2	14	8	55	6																		
中学校	298	10	12歳以上	5,187	54	144	▲6	5,331	48	338	▲10	18	3	356	▲7	5,687	5.2%	5,646	41	0.7%							
高校	1,039	▲10	15歳以上	24,809	313	464	26	25,273	339	1,831	▲25	1,424	49	3,255	24	28,528	26.1%	28,165	363	1.3%							
高専	38	0	15歳~18歳未満	463	▲1	5	2	468	1	88	4	60	9	148	13	998	0.9%	1,005	▲7	-0.7%							
			18歳以上	376	▲27	6	6	382	▲21																		
大学	316	2	18歳以上	10,292	199	109	9	10,401	208	889	19	929	▲17	1,818	2	12,219	11.2%	12,009	210	1.7%							
社会人	211	▲3	15歳以上	6,622	▲120	34	20	6,656	▲100	1,105	7	103	▲14	1,208	▲7	7,864	7.2%	7,971	▲107	-1.3%							
学生クラブ	28	▲1	18歳以上	996	52	5	▲9	1,001	43	37	▲11	192	27	229	16	1,230	1.1%	1,171	59	5.0%							
大学OB	6	▲2	22歳以上	117	▲61	0	0	117	▲61	17	▲2	0	▲1	17	▲3	134	0.1%	198	▲64	-32.3%							
高校OB	15	1	18歳以上	244	35	0	0	244	35	5	▲3	2	1	7	▲2	251	0.2%	218	33	15.1%							
一般クラブ	567	▲10	18歳以上	18,950	11	76	19	19,026	30	762	▲70	192	▲47	954	▲117	19,980	18.3%	20,067	▲87	-0.4%							
女子	63	8	6歳~12歳未満			40	33	40	33	76	23	33	6	109	29	904	0.8%	668	236	35.3%							
			12歳~15歳未満			127	35	127	35																		
			15歳~18歳未満			234	95	234	95																		
			18歳以上			394	44	394	44																		
無所属	3	0	6歳~12歳未満			0	▲1	0	▲1	/	/	/	/	/	/	16	0.0%	27	▲11	-40.7%							
			12歳~15歳未満			3	▲1	3	▲1																		
			15歳~18歳未満			4	0	4	0																		
			18歳以上			9	▲9	9	▲9																		
合計	3,026	7		91,852	2,772	4,197	627	96,049	3,399	10,171	187	3,092	26	13,263	213	109,312	100.0%	105,693	3,619	3.4%							

https://www.rugby-japan.jp/wp-content/uploads/2017/08/kyogi_jinko_h28.pdf



当資料へのご質問・ご意見の連絡先

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会
企画部 齋藤 守弘

mail: m.saito@rugby-japan.or.jp

